

あがつま



「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

(ローマの信徒への手紙 12章1節)

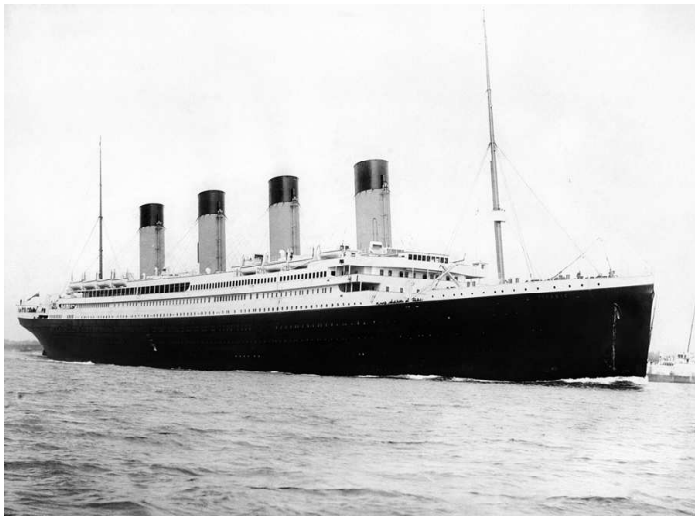
♪ 賛美歌を歌おう ⑳ 『主よ、みもとに』

讚美歌 320番

この賛美歌を聴くと、葬儀の場面を思い起こします。献花や出棺のときに演奏されて、兄弟姉妹の顔が浮かんで、葬送にふさわしい歌詞であることはもちろんのこと、この映画『タイタニック』の影響があるのかもしれない。タイタニック号は、その最初の航海において、氷山に接触し沈没しました。千五百人余りの犠牲者を出した。沈没最大の海難事故です。沈みゆく船上で、楽隊が最後までこの『主よ、みもとに』(Nearer, My God, to Thee)を演奏し続けたという、有名な伝説が残されています。

実はこの賛美歌は、複数の旋律との組み合わせで歌われている。タイタニック号沈没時に演奏された旋律について議論があります。『讚美歌 54年版』の320番は、主にアメリカで歌われていた『ベタニア』という旋律が採用されていて、これは一九九七年公開のアメリカ映画『タイタニック』で、タイタニック号が沈没する場面でも演奏されているのと同じ旋律です。一方、タイタニック号がイギリスの船であったことから、主にイギリスで歌われていた『ホーベリー』という旋律だったはずだと主張もあります。タイタニック号を題材にした映画は数多くありますが、イギリスで制作された映画と、アメリカで制作された

「された映画では、沈没する
場面で演奏されている旋律が
違っていたりもします。いず
れにせよ、『主よ、みもとに』
が葬儀の定番賛美歌となっ
たのは、このタイタニック伝説
によるところが大きいように
思えます。



出航するタイタニック号)

作詞者のサラ・フラワー・
アダムズ (1805-48) はイギリ
スの詩人で、シェイクスピア
劇の俳優をしていました。が、
病気のためにその道をあきら
め、文筆に専念することにな
ります。

ユニテリアン (三位一体の
教義を否定し、神の唯一性を
主張する教派) の教会に属し
ていた父に依頼され、サラは
十三編の賛美歌を作詞しまし
た。『主よ、みもとに』もこ
の時の作品です。創世記二八
章の「ヤコブの梯子」を題材
に、神よ、あなたの近くに！
と繰り返し訴えるこの歌から
は、神を必死に求める思いが
しっかりと伝わってきます。
旋律は「アメリカ賛美歌の
父」とも呼ばれるローウェル
・メーソン (1792-1872) によ
る「ベタニア」です。ベタニ
アというのエルサレム郊外の

地名で、福音書ではマリヤ・
マルタ・ラザロ兄弟の住んで
いたとされる村です。メーソ
ンには、自分の作曲した旋律
に聖書の地名をつける習慣が
あったようです。

賛美歌21はこの賛美歌を、
旋律「ベタニア」(434番)と、
旋律「ホーベリー」(435番)
の二つの組み合わせで収録し
ています。日本では長く「ベ
タニア」の旋律で親しまれて
きました。が、「ホーベリー」
も素晴らしい旋律ですので、
機会があれば歌い比べてみて
ください。

